



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第三八八号）

立春 りっしゅん

二月四日

卯の年

暦の上での春、立春を迎えました。太陽暦を使用する現代は、新年と立春は一ヶ月近く離れてしまいましたが、旧暦の昔は、この頃に新年を迎えていたため、春と新年は近い存在でした。そこで、今回は今年の干支の「兔」について触れたいと思います。

じつは、干支の四番目「兔」は、動物のウサギとはあまり関係がなく、もっぱら東の方角に関わりがあります。子午線ならぬ、卯酉線をご存じでしょうか。子午線は地球を南北に結ぶ経線、そして卯酉線は東西を結ぶ緯線をいいます。また卯の時といえば、午前六時頃にあたります。

一方、動物のウサギは跳びはねたり、かわいらしい風貌から、イラストになったり、アニメのキャラクターなどにも登場します。また、小学校時代にはウサギの飼育当番をしていた人も多いのではないのでしょうか。そんな私たちにとって親しみのあるウサギは、十世紀の『延喜式』という法令集にも登場しています。そこには、天皇の徳政（人々に恵みを施す政治）に応じて天が示す目出度い標し「祥瑞」の定めがあります。その二番目に「赤ウサギ」、三番目に「白ウサギ」が上げられています。貴重な動物だったことが伺えます。古くは、「祥瑞」を見つけたり、捕まえたりしたら、都に報告する必要があったといえますから、目出度い標しのウサギは、都に随分と運ばれたのではないのでしょうか。

しかし、江戸時代になるとウサギを取り巻く状況は少々変わっていて、『和漢三才図会』という百科事典には、日本にはよくいるもので、食品として上等の味であると記してあります。食用にしていたようです。

新年、伊勢神宮内宮の参道で白ウサギが見られ、話題となりました。まさしく「祥瑞」の標しですね。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『春の張る財布展』

草木が芽吹く「春」に新調する財布は、「春」と「張る」をかけて張るほどお金が入ると言われ縁起が良いとされています。

新しい年の幕開けや、吉日をきっかけに縁起良く財布を新調してみたいはいかがですか？

日時／2月3日(金)～2月26日(日) 9:30～17:00

場所／福鼓堂

○『稲垣竜一作陶展』

ブルーの釉薬が鮮やかに光る「うみいろ」の器たち。土や釉薬へのこだわり、技術、そして独特の造形。稲垣氏の表現豊かな作品ばかりです。

ひとつひとつに魂が込められた作陶展をぜひご覧ください。

日時／2月4日(土)～2月19日(日) 10:00～17:00

場所／他抜きだんらん亭

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○『伊勢商人と松阪の豪商 三井高利』

三重県には伊勢商人と呼ばれる商人たちがいました。伊勢商人とは、伊勢国出身商人の総称で、出身地別に分類すると、松阪中心部出身者からなる松阪グループ、射和・相可・丹生などの橿田川グループ、津城下町の津グループ、鈴鹿・白子の白子グループに大別できます。中でも松阪商人の三井高利は江戸への進出は遅かったものの、「店前売」や「現金掛け値なし」などの様々な商法を生み出し一躍豪商と呼ばれる大商人になりました。高利亡き後も、その商法は子孫が引き継ぎ斬新な商いとPRを展開しました。そして、高利が開いた越後屋は三井財閥、三井グループへとつながっていきます。本講座では、実物資料も交えながら伊勢商人のあらましと三井高利について紹介します。

と き／2月8日(水) 13:30～15:00

講 師／杉山 亜沙佳(松阪市立歴史民俗資料館学芸員)

参加費／一般 1,450円 会員 950円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となる可能性があります。

五十鈴茶屋

○『五十鈴茶屋節気菓子』

しらたまつばき

白玉椿

椿の中で最も白く清楚に咲く白玉椿。山芋を使った生地でこし餡を包み、風格ある薯蕷(じょうよ)まんじゅうに仕上げました。

はる おとず

春の訪れ

日差しの温もりとともに梅の便りが聞かれる頃です。香り高く春を待つ梅の花を外郎(ういろう)生地に写しました。あっさりとした味わいをお楽しみください。

そう しゅん

早春

こし餡と若草色のそばろに羊羹を重ね、春先の芽吹きを表現しました。ほろりとした生地の食感をお楽しみください。